原則であり、その内容においてウイルソン的國際聯盟的なるブルジョア民主々義性、形式的小國主義性を含んでゐる。それはあらゆる時と所に妥當な原則でなく、プロレタリアートの原則としてもロシア革命當時にもつた革命性を既に失つた、もう陳腐となつた原則である。現にロシア革命における民族自決の實踐の結果、反動的ポーランドの成立、バルト海沿岸諸邦の英佛資本の傀儡化等に見る如く、ヴェルサイユ條約の民族自決の實踐の結果、中部ヨウロッパに中世的分裂狀態が成立したのと同樣、悉く反動的效果を收めたのみである。この原則は母國のプロレタリアートと殖民地の勞働者大衆との結合によつて築かれる大國的な一國社會主義の可能を無視して居る。諸民族の生活の權利に甲乙はない。我々は鮮台兩民族に對する資本主義的搾取及び彈壓を何よりも日本民族自身に對する最大の侮辱と排する。我々は日台鮮各民族の完全な同權のために闘ふ。しかし民族同權の具体的表現は形式的な國家的分離でない。經濟的文化的歴史的に近接せる諸民族の勤

勞者大衆が一個の大國家に結合して人民的階級的に融合し社會主義の建設に努力することが遂に現實的な世界史的方向である。緊密の同一經濟体系の中に生活する日台鮮勤勞者大衆の共同の任務は搾取者との闘爭を通じて此の國家を勤勞者自身の國家たらしめるにある。もし日台鮮諸民族がコミンターンの希望する如く、機械的に民族自決の原則に從ひ國家的分離を行つたならば、それは依然ブルジョアの支配する反動的小國群の成立に終り、アジア諸民族のヨリ保守的分裂の第一歩となる筈であらう。ヨウロッパの帝國主義母國とその殖民地（たとへばイギリスとインド、フランスと印度支那）は經濟的文化的歴史的に懸絶する故に、相互の勤勞者と雖も容易に結合し難く、從つて一個の社會主義体系を產出するは殆んど不可能である。日本と朝鮮、台灣は、それらと殆んど範疇的に異つて居る。我々は日本、朝鮮、台灣のみならず、滿洲、支那本部をも含んだ一個の巨大な社會主義國家の成立を將來に豫想する。